

一の瀬園地（牧場）景観保全事業及び道標整備 活動成果報告書

NPO法人 北アルプスネイチャートラスト

代表 奥原 満登

長野県

はじめに

私たちの住んでいる北アルプス乗鞍地域は、中部山岳国立公園の最南端に位置する場所にあり、乗鞍岳（3026m）の近くまで自動車道が整備され、山麓にはさわやかな高原、美しい溪谷、湯量豊富な温泉が随所にある山岳リゾート地帯です。昭和36年には国民休暇村が建設され、その後乗鞍岳へ通ずる自動車道が整備され、ツーリストの多くに親しまれるエリアになりました。平成15年より乗鞍岳に通じる自動車道がマイカー規制となり、また、スキー人口の減少等もあり乗鞍地域に訪れるツーリストが極端に少なくなっています。しかし、乗鞍地域においては、訪れるツーリストのリピーター率の割合が比較的高く、一定のツーリストには人気のあるエリアではないかと思われる。その中でも標高1500mの草原から3000mの乗鞍岳が眺望できる一の瀬牧場は、もっともリラックスできるスポットのひとつであると思われる。

この一の瀬牧場は明治45年に開牧された牧場で、地元住民の共有地（大野川区）（一部私有地もあり）であり、地元住民がずっと管理をしてきました。昭和9年に中部山岳国立公園に指定された当時も、草原景観のすばらしい景勝地でありました。当時は、地元住民が農林業・畜産業・わらび粉の採取・炭焼き・燃料に使用する立木の伐採・そば畑等に入れる草木肥料の採取・山菜及びきのこ等の採取などによって地元住民の生活全般に利用され大野川区の管理の下に草原景観が維持されてきました。しかし、1950年～60年にかけて日本全国でおきた燃料革命によって、木炭や薪の家

庭用燃料がプロパンガス・灯油に代わり使用されることによって共有地から薪等を伐採しなくなり、また、農林業から観光業へ転向する地元住民が増えて牛を放牧する人が少なくなりました。昭和の最盛期の牛の放牧頭数は、200頭を越えたといわれています。ここ5年間の放牧頭数は別記のとおりです。牧場に放牧する牛の数が減ったこと、また地元住民が畑に入れる草木飼料を使用することが少なくなり、草刈場として利用することがなくなった等の事情が重なって、牧場は昔ほど手入れがされなくなり、現在では、一部を除いてかん木や萌芽の成長によって藪または林の状態になっています。このように林や藪の状態になると従来草原にあった笹ユリやツマトリソウ等の山野草が陰をひそめてしまい、本来の魅力を失ってしまいます。また、牛が食さないレンゲツツジ郡がとても美しく咲いた場所がススキ等の繁殖が著しく、レンゲツツジの成長を妨げています。

NPO法人 北アルプスネイチャートラストは、乗鞍地域及び国立公園を利用するツーリストに開放感のあるさわやかな自然景観を維持保全することによって、ゆったりそしてのんびりできる空間を提供するために活動しています。そして、この活動により継続的なツーリストを確保することによって地域の活性化ができると思っています。

・一の瀬牧場の放牧頭数（過去5年間）

年度	牛頭数	馬頭数	合計頭数	備考
平成14年	30	7	37	
平成15年	20	3	23	
平成16年	25	9	34	
平成17年	30	7	37	
平成18年	11	9	20	

活動概要

NPO法人 北アルプスネイチャートラストは、平成15年4月にNPO法人として認証を受けましたが、以前から、個人やグループで山野草の保護育成や登山道整備等の自然環境保全活動をしてきた地元住民が、個人でおこなう活動には限界あることを感じ仲間を募って立ち上げた団体です。自然保護の観点から、乗鞍岳に通じる岐阜県の乗鞍スカイラインや長野県のエコーラインのマイカー規制が平成15年7月から実施されました。自動車で標高2700mまでのドライブなどを楽しむツーリストは当然少なくなりましたが、乗鞍岳登山や、滝めぐり、自然探索などをツーリストに楽しんでもいただけるように、環境保全型リゾートの整備をするため活動しています。私どもの整備している一の瀬園地（牧場）は大野川区という地元の集団の共有地であります。しかし、地元の住民が宿泊施設など観光業に携わっているため、大野川区の管理が昔ほどに強制する力がなくなり土地の管理が思うようにいっていません。そこで、当法人が少しでも藪などを除去し、草原景観保全に資することができればと考えています。この一の瀬牧場は、約250haの広さがあり、毎年雑草や萌芽が成長するためボランティアだけでは一挙に藪の刈り払いをすることは不可能です。とりあえず、公園自動車道・遊歩道・サイクリング道路等の両側を優先的に整備し、一の瀬川などのせせらぎ・大小の池・湿原等の周辺の刈り払いを進めてゆきたいと考えています。また、乗鞍を訪れるツーリストや松本市のボランティアに呼びかけて、刈り払いをした草木の後かたづけなどを一緒に活動していただけるようにしていきたいと考えています。

また、一の瀬牧場周辺の遊歩道やサイクリング道路などにある昔に整備された道標が、朽ちて倒れたり、字が判別できなくなったりしてお客様からの苦情があります。そこで、道標が倒れている

ものや朽ちているものは撤去し、設置者の許可を得て修復・立替をおこないました。

今回、景観整備及び道標の整備をした場所は、次ページの地図のとおりです。

活動内容

① 一の瀬景観保全事業（18年度）

広大な牧場であるので、どこから手をつけたらよいか思案をしましたが、とりあえずツーリストの比較的多い公園道路沿いとサイクリング道路及び溪流つりののできる一の瀬川沿いを選びました。長年放置されている場所は、白樺やミズナラの萌芽（地元では杖（づえ）と呼んでいます）及び灌木が人の背丈以上になり、またひどい所では小灌木が密生し藪状態となっていて林床に光があたらない状態になっていました。この草木や萌芽を刈り取るには馬力のない草刈り機では作業ができず、今回、いただいて補助金で購入した専門の草刈り機を使用しました。この草刈機は非常に馬力があって大変重宝しました。また、遊歩道やサイクリング道路の脇などに強風によって途中から折れた立木や、立ち枯れの木などがありツーリストにとって危険なため、チェーンソーにて伐採をしました。

7月2日には“まいめ池”周辺を大野川区と協力し松本環境事務所の許可を得て立木の伐採を行いました。この場所も昔は一面草原で牛が牧草を食む姿が見られたところでした。

10月29日には松本の信州大学の学生にボランティアとして協力していただき、一の瀬牧場の歴史や環境保全のあり方などを話し合いながら、公園道路沿いの刈り払いをした草木の後かたづけをしていただきました。

活動実績及び活動写真は後記のとおりです。

② 遊歩道等の道標整備事業（18年度）

一の瀬園地の道標及び案内板については、一の瀬園地の遊歩道“白樺の小径”・“口笛の小径”・“小

リスの径”及びサイクリング道路沿いの道標及び案内板の現状の調査を行ないました。その結果、大小の道標や案内板が倒れたり、朽ちて変形したり、字が読めない物等がありました。環境省や県で設置した大きなものは直ちに補修できないため、比較的小さい道標等を4ヶ所について、設置者の許可を得て立て替えることにしました。立替え箇所は、以下のとおりです。

1. 7月の豪雨被害により案内板が流出した“あざみ池”の案内板
2. 割れてしまっていた一の瀬つつじ園の案内板
3. “白樺の小径”のネイチャープラザ上のあずまや脇の道標
4. “白樺の小径”のネイチャープラザから鈴蘭に向かう途中の道標

活動及び道標設置作業写真は後記のとおりです。

活動の成果

一の瀬園地（牧場）は広大で、今回整備場所の面積は狭い範囲ではありますが、遊歩道やサイクリング道路を利用したツーリスト、溪流つりを楽しんだ方などには、広々とした開放感のある乗鞍岳（3026m）を展望できる空間を提供することができました。

9月の澄み渡った秋の空の下、草原景観に整備された、“まいめ池”のほとりで音楽会を開催し、お客様にはアルプホルンの演奏やヨーデルの歌声を楽しんでいただくことができました。この一の瀬園地というすばらしい山岳景観をもつ場所にはピッタリくる音楽会であったと地元の人も喜んでいました。

また、今年は日本各地でツキノワグマによる人的被害が話題になりましたが、この乗鞍高原でも例外ではなく養蜂家などは相当な被害を受け、ツキノワグマと遭遇したなどの事例は多数ありました。ツキノワグマやニホンザル等の動物達によって、地元住民やツーリストに危害を加えられたり

すると、観光地としてのイメージにも瑕をつけることになります。

動物達と共存していくことは大事なことを考えていますが、それには人間との住み分けをはっきりすること、また100メートルぐらいの距離でお互いを認識できる状況にあることなどを考慮すると、一の瀬園地においても藪やススキ等の刈り払いをし、開放感をもたせることによって動物による人的被害を防止することにもつながったと考えています。

おわりに

NPO法人を立ち上げて19年3月でまる4年が経過します。4月からは5年目にはいりますが、よく消滅せずもったなというのが実感です。地元住民の方には“NPO”って何？ 私たちの理念や行動が十分理解されず、会員も20名そこそこで推移し、資金も会費だけで脆弱なものでした。

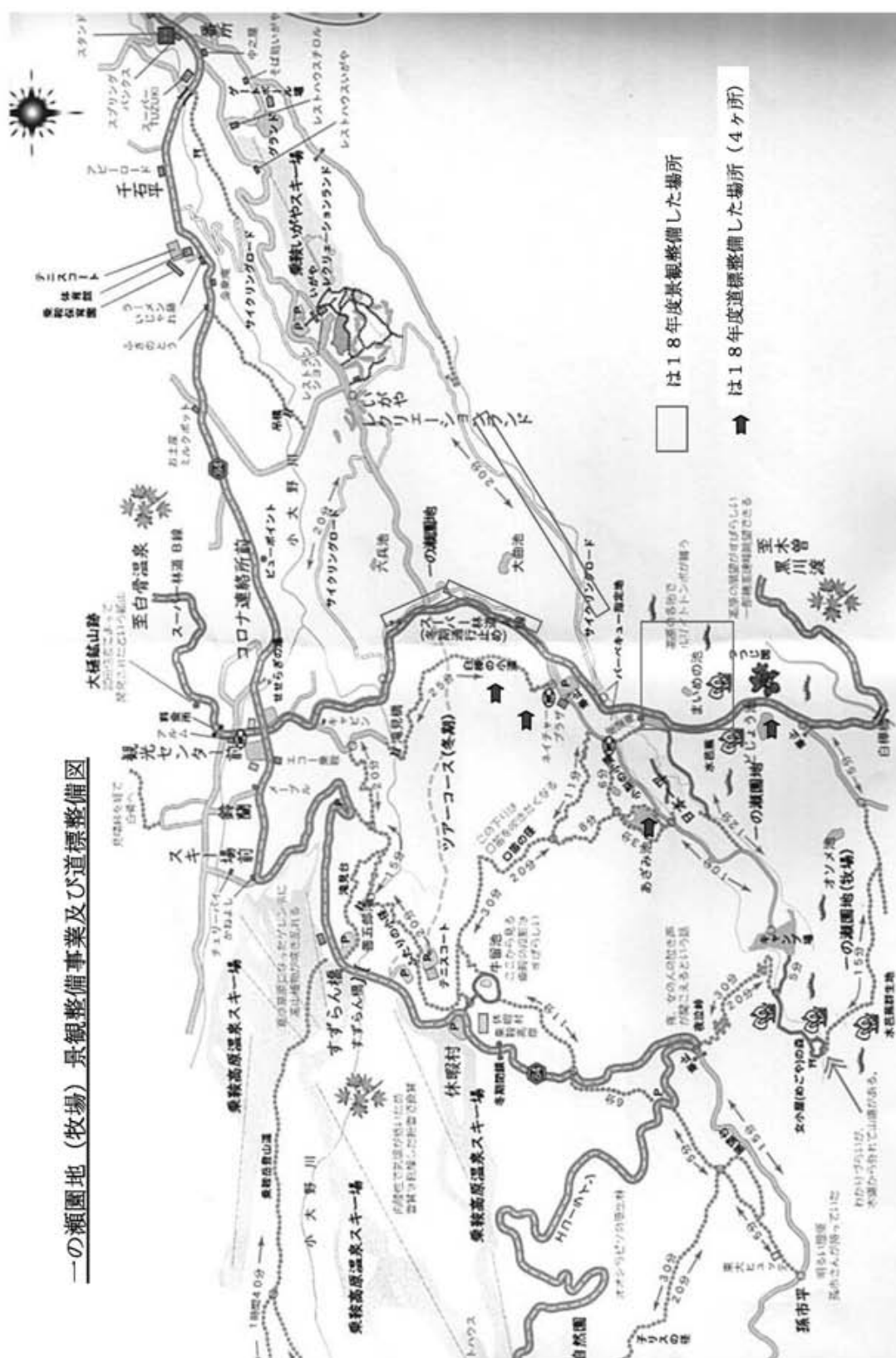
タカラハーモニストファンドから補助をいただいたことによって、専門の機械を購入することができ、作業効率も上がり、活動範囲も広げることができました。ここに助成いただいたタカラハーモニストファンドはじめボランティアにご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

活動が盛んになり、地元の皆さんの目に止まることによって、少しずつ活動が理解され、会員になっていただける方も増えてまいりました。広大な土地の草原景観保全は気の遠くなる活動ですが、“地元のことは地元が頑張る”をモットーに地道に活動してきた私どもにとって、大変励みになる補助でありました。これからも“継続は力なり”を信念に活動を進めてまいります。

表 1 活動内容（平成18年6月21日～平成18年10月29日）

番号	実施日時	実施場所	参加人数	実施内容
1	6月21日	一の瀬園地 まいめ池	3人	まいめ池付近の白樺の萌芽の刈り取り
2	7月2日	一の瀬園地 まいめ池	30人	大野川区と共同作業 まいめ池南東側の立木の伐採と後かたづけ。
3	7月10日 11日	一の瀬園地 道標調査	延4人	“白樺の小径”及び“口笛の小径” “オソメ池”の遊歩道の道標調査
4	7月26日	乗鞍岳登山道	8人	乗鞍岳に通じる登山道の整備 冷沢から位ヶ原山荘上部間の刈り払い及び支障木撤去
5	7月30日 31日	一の瀬園地 一の瀬川沿い	延6人	昨年の刈り払いの地点から、いがやりクレーションランドに向かって一の瀬川沿いの刈り払い作業
6	8月22日	一の瀬園地 道標補修設置	4人	一の瀬園地“あざみ池”及び “一の瀬つつじ園”の道標補修設置
7	8月29日 30日 31日	一の瀬園地 一の瀬川沿い	延6人	一の瀬川とサイクリング道路の間の 刈り払い作業
8	9月4日 5日	一の瀬園地 一の瀬川沿い	延15人	一の瀬川とサイクリング道路の間の 刈り払い作業
9	9月14日	一の瀬園地 一の瀬川沿い	2人	昨年刈り払いした一の瀬川沿いの調査
10	9月20日	一の瀬園地 まいめ池	20人	旅館組合及び民宿組合との共同作業 まいめ池周辺の萌芽除去作業
11	9月24日	一の瀬園地 まいめ池		旅館組合及び民宿組合等で組織する花劇場組織委員会のイベント アルプホルン演奏会の開催
12	10月18日	一の瀬園地 道標補修設置	4人	“白樺の小径”のネイチャープラザ上部の 東屋付近と鈴蘭に向かう途中の道標交換
13	10月21日	乗鞍自然園 道標調査	2人	乗鞍自然園の“孫市平”及び “小リスの径”の道標及び遊歩道の調査
14	10月29日	一の瀬園地 スーパー林道	10人	一の瀬園地スーパー林道沿いの刈り払い 作業 信州大学の学生ボランティアと一緒に作業をした。

図 備 整 道 び 及 業 事 備 整 景 (牧 場) 地 園 瀬 の 一 一



・ 萌芽（杖）の状況

一の瀬園地では、草原は放っておくと、まず白樺やミズナラの萌芽が成長します。また、一の瀬園地には無かった外来植物のニセアカシヤが確認され繁殖力が非常に強く、早いうちに根絶しなくてはならない。



白樺の木を伐採した後に出る萌芽



白樺の萌芽



草原に一番早く
出てくる白樺の
萌芽（杖）の藪



ミズナラの萌芽（杖）



外来種ニセアカシアの萌芽（杖）



ニセアカシアの萌芽（杖）の藪

9. 一の瀬川沿いの萌芽調査

この下の2枚の写真は昨年秋に、白樺の萌芽の刈り払いをした場所です。場所によって多少異なりますが、1年間で30～70センチの萌芽に成長しています。



1. 10 6月21日・9月20日“まいめ池”景観保全作業

“まいめ池”周辺に白樺の萌芽が多数出ているので、春先に萌芽の刈り払いをおこなった。



A地点萌芽刈り払い前（高さ約1メートル）



A地点刈り払い作業中



A地点刈り払い作業後



B地点刈り払い前



B地点作業後



刈り払い作業中

2. 7月2日大野川区との共同作業

雨の中地元住民が精一杯作業をした。ボランティアの方が1名参加しました



朝8時に30人が集合



まいめ池作業前



伐採作業中



片付け作業中



片付け作業中



作業終了後

3. 6. 12 7月10, 11日一の瀬園地道標調査及び道標修復設置工事

一の瀬園地の“白樺の小径”・“口笛の小径”・“オソメ池”“つつじ園”の道標の状況を調査したが年数がたっている道標・案内板は字が読めなかったり、朽ちて倒れているものもあった。また、道標が必要と思われる場所が何ヶ所あった。



つつじ園の落ちた案内板



ネイチャープラザ上道標



白樺の小径の道標



修復後のつつじ園案内板



修復交換後
ネイチャープラザ上道標



修復交換後の
白樺の小径の道標



朽ちた道標



修繕したあざみ池の案内板

4. 7月26日 乗鞍登山道の刈り払い及び支障木の撤去

長野県内の中学生の集団登山や一般登山者に利用されている登山道なので整備を行なった。



朝8時に集合



冷沢カーブ刈り払い作業



登山道を塞いでいる倒木



倒木の撤去作業中



位ヶ原山荘下部作業中



位ヶ原山荘ガレ場作業中

5. 7. 8. 一の瀬川（伊奈川）刈り払い作業

一の瀬川（伊奈川）に沿って、一の瀬川とサイクリング道路の間を昨年刈り払いした場所からいがやリクレーションランドに向かって約800メートルの間、刈り払い作業をした。



A地点作業前



A地点作業後



B地点作業前



B地点作業後



C地点作業前



C地点作業後



D地点作業前



D地点作業後



E 2 地点作業前



E 2 地点作業後



E 2 地点作業前



E 2 地点作業後

11. 9月24日花劇場のアルプホルン演奏会イベント

草原景観に整備された一の瀬園地内“まいめ池”で、アルプホルンやヨーデルの歌声が高原に響きわたり約300人の聴衆を喜ばせた。



14. 10月29日スーパー林道沿い景観保全活動

信州大学の学生ボランティアと一緒にスーパー林道沿いの刈り払いをおこなった。



朝8時30分集合



サイクリング道路トンネル作業後



大曲池入口付近作業前



大曲池入口付近作業後



いがや三叉路付近作業中



いがや三叉路付近作業後

